

大腸穿孔に対する創内持続陰圧洗浄療法 (IW-CONPIT) を用いた 遅延一次閉鎖療法の有用性の検討

1. 研究の対象

2015年4月～2017年1月までに当院で大腸穿孔に対して腹部緊急手術を受けられた患者様

2. 研究目的・方法

【背景】大腸穿孔による急性汎発性腹膜炎では手術部位感染症(以下 SSI)は 40%と高率に発症すると報告されております(Annals of surgery 2001)。当科では 2015 年より Hinchey stage3/4 の大腸穿孔に対して創内を持続的に洗浄し陰圧をかける創内持続陰圧洗浄療法 (IW-CONPIT) を導入し、導入前後での観察研究をもとに遅延一次閉鎖療法の有用性を検討しました。

【対象と方法】

2015年4月から2017年1月までの大腸穿孔症例 40 例を対象とし、一次閉鎖群と遅延一次閉鎖療法の 2 群に分けて、全 SSI 発生率、表層深層 SSI 発生率、臓器体腔 SSI 発生率、在院日数および Clavien-Dindo I 以上の合併症率について比較検討しました。

研究実施期間:倫理委員会承認日～2019年7月頃

3. 研究に用いる試料・情報の種類

術前血液検査、バイタルサイン、転帰、術後血液検査データ

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【問い合わせ窓口】

済生会熊本病院 外科 研究責任者:外科 小川克大

TEL:096-351-8000(病院代表)

以上